

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401343		
法人名	医療法人 有心会		
事業所名	グループホーム茜雲		
所在地	南島原市有家町山川1-9		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年12月1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療系のグループホームとしての個々の身体能力や心身の状態に応じて効果的な個人ケアを行い、自己決定を尊重し自立支援に向けた取組を行っています。一人ひとりの入居者様に尊厳のある老後を送って頂けるよう支援し『入居者の個性を尊重し、QOL(生活の質)を高めることにより、生き甲斐を持って明るい生活を送って頂く』ことを理念に掲げ、『その人のペースに合わせてゆっくりと』を介護目標として、全入居者が日々笑顔で生活して頂けるように全職員が、心のこもった介護をさせて頂いているグループホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは周辺に昔ながらの商店街や住宅が隣接した場所にある。ホームは自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得ながら交流している。コロナ禍が第5類になり、職員が秋祭りのしめ縄作りやおにぎり作りに参加したり、有事の際には地域の寺院より避難場所として協力を得るなど地域との交流を深めている。職員は入居者の希望に応じ買物同行のほか、以前通っていた教会へ参拝同行や、行き付けの美容室へ連れて行くなど馴染みの人や場所との関係継続を支援している。入居者は趣味である習字にて書写や絵ハガキを書いたり、メダカを飼いたい入居者の希望に応じて水槽を置いて愉しめるよう取り組んでいる。開設以来、理念は各棟のリビング・事務所に掲示し、職員は日々確認している。介護目標『その人のペースに合わせてゆっくりと』を念頭に、入居者が笑顔で生活できるように職員が心のこもった介護実践に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を掲げ、管理者と職員は、会議やミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関りを保てるグループホームとして、実践につなげている。	理念として「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を掲げ、管理者と職員は、会議やミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関りを保てるグループホームとして、実践につなげている。	理念「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」は、各棟のリビング・事務所に掲示して毎日確認している。年1回、法人の総務と管理者が入居者の仕事ぶりについて職員へ人事考課をしている。介護目標『その人のペースに合わせてゆくりと』を念頭に置き、入居者が日々笑顔で生活してもらえるように職員が心のこもった介護を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 令和5年10月10日	施設周辺の清掃や町内会の祭事等の地域活動、市町村や警察、消防、地元消防団との連携を積極的に行い事業所自体が地域の一員として、地域活動に参加し交流を深め利用者が地域とのつながりを保てる生活が続けられるよう支援している。	施設周辺の清掃や町内会の祭事等の地域活動、市町村や警察、消防、地元消防団との連携を積極的に行い事業所自体が地域の一員として、地域活動に参加し交流を深め利用者が地域とのつながりを保てる生活が続けられるよう支援している。	ホームは自治会に加入し、回覧板を通じて地域の情報を得ている。コロナ禍が第5類になり、職員が秋祭りのしめ縄作りやおにぎり作りに入居者と共に参加し、地域との交流を深めている。有事の際、地域の寺院が避難場所になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族やご親族、遊人の方々や、近隣の方々との交流、2カ月に1回の運営推進会議等において事業所として、認知症の方の理解や支援方法をわかりやすく伝えるようにしている。	面会に来られるご家族やご親族、遊人の方々や、近隣の方々との交流、2カ月に1回の運営推進会議等において事業所として、認知症の方の理解や支援方法をわかりやすく伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告、消防訓練等の実施報告に対し、各委員、ご家族代表からの積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通じてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告、消防訓練等の実施報告に対し、各委員、ご家族代表からの積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通じてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議に家族代表・介護保険課主査・地域代表・管理者・高齢者虐待防止担当職員が参加している。A棟・B棟の入居者の生活情報や、高齢者虐待防止委員会の「NGワード」の講話、身体拘束委員会の「スピーチロックとは」について説明を聞いたり、委員からの質問や意見によりホームで話し合いを行いサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、時には助言を頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、時には助言を頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村の担当者とは運営推進会議の参加時にホームの取り組み状況を知らせ、意見交換している。職員は介護保険の更新手続きに市へ出向いたり、生活保護の方には生活状況を知らせるなど日頃から市担当者と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルを定めており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、運営推進会議と一緒に身体拘束廃止委員会を行い、職員全体のみではなく参加者全員と共に身体拘束について理解を深めている。	身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルを定めており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、運営推進会議と一緒に身体拘束廃止委員会を行い、職員全体のみではなく参加者全員と共に身体拘束について理解を深めている。	ホームは身体拘束廃止に関する指針や虐待防止の指針を整備している。運営推進会議にて身体拘束委員会・虐待防止委員会を開催して担当職員が講話や説明をして禁止対象となる具体的な行為を全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアや虐待防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を新たに設置し、職員全体の周知を行い職員間でも虐待防止の研修を行っている。また、利用者に対して不適切な言動等がないか職員間で疎通を図っている。	高齢者虐待防止の指針を新たに設置し、職員全体の周知を行い職員間でも虐待防止の研修を行っている。また、利用者に対して不適切な言動等がないか職員間で疎通を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護、日常生活支援事業や成年後見制度について都度、職員に周知を行っている。又、職場内研修・島原半島GH協議会で研修の案内があった際は、参加し制度の理解と活用に努めている。	管理者は、権利擁護、日常生活支援事業や成年後見制度について都度、職員に周知を行っている。又、職場内研修・島原半島GH協議会で研修の案内があった際は、参加し制度の理解と活用に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改正等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図り、契約を締結している。又、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。	契約の締結、改正等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図り、契約を締結している。又、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、又、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。	毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、又、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。	家族の意見や要望は、面会時や電話にて聞いており、相談・苦情に関する記録を残し運営に反映させている。主に面会に対する取り組みについて要望や問い合わせがある。コロナが第5類になり、玄関で時間を決めて面会ができるようになっている。広報誌「笑顔」は、毎月、入居者の行事の様子を写真に載せて知らせており、家族の喜びになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1日2回のミーティング時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。	管理者は、1日2回のミーティング時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。	管理者はミーティング時に申し送りを行ったり、職員の意見・要望を聞いて介護実践に活かしている。勤務シフトは事前に職員より希望休を聞き、日程を調整を行い、希望した休みが取れるよう配慮している。管理者は夜勤に多く就きたい職員や、都合により夜勤ができない職員の要望を聞き、勤務体制を整えて働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代等の職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代等の職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の資格所得の症例や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。又、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。	全職員の資格所得の症例や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。又、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、案内がある際は積極的に研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、案内がある際は積極的に研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っている事、不安な事など要望等を聞き、十分に説明を行い、又希望時には、施設見学等して頂きどのような環境で生活できるかを知ってもらい、出来る限り本人の安心が確保できる関係作りに努めている。	入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っている事、不安な事など要望等を聞き、十分に説明を行い、又希望時には、施設見学等して頂きどのような環境で生活できるかを知ってもらい、出来る限り本人の安心が確保できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談できる機会を設け、困っている事、不安な事など要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる環境作りに努めている。	サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談できる機会を設け、困っている事、不安な事など要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人様とご家族様に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様・ご家族様の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず、本人様とご家族様に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様・ご家族様の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の尊重を第一に考え、先人の智慧や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えて頂いたり、食後のお盆・食器拭きや洗濯物の片付けなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、支え合える関係を持てるよう支援している。	個人の尊重を第一に考え、先人の智慧や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えて頂いたり、食後のお盆・食器拭きや洗濯物の片付けなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、支え合える関係を持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩みごとなどをご家族様に報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族様の思い、関係を大切にしながら、ともに本人様を支えていく関係を築いている。	本人様の施設での生活状況や相談事、悩みごとなどをご家族様に報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族様の思い、関係を大切にしながら、ともに本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入所後も近隣の方々やご友人に気軽に訪問して頂けるよう働きかけを行っている。本人が希望される、ショッピングセンターや教会へのお参りなどそれぞれの通い慣れたところへお連れしている。	入所後も近隣の方々やご友人に気軽に訪問して頂けるよう働きかけを行っている。本人が希望される、ショッピングセンターや教会へのお参りなどそれぞれの通い慣れたところへお連れしている。	入居者の希望に応じて買物支援を行ったり、入居者が以前から通っていた教会へ参拝に行くなど支援している。職員は入居者の希望に応じ買物同行のほか、以前通っていた教会へ参拝同行や、行き付けの美容室へ連れて行くなど馴染みの人や場所との関係継続を支援している。趣味である習字にて書写や絵ハガキを書いたり、2、3カ月前からメダカを飼いたいと言う入居者の希望に応じて水槽を置いて眺めて楽しめるよう支援に努めている	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちをくみ取りながら利用者同士の関係向上のため、食事の席替え、レクリエーションへの呼びかけ、ドライブへの声掛けなど、利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している。	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちをくみ取りながら利用者同士の関係向上のため、食事の席替え、レクリエーションへの呼びかけ、ドライブへの声掛けなど、利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご本人様・ご家族様との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問・電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。	退所後も、ご本人様・ご家族様との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問・電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、一人一人の思いや暮らし方の希望、憩いの把握について聞き取りを行い、出来る限りその方の求めている事に応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。	随時、一人一人の思いや暮らし方の希望、憩いの把握について聞き取りを行い、出来る限りその方の求めている事に応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。	職員は、意思疎通が困難な入居者に対し、入居者の表情や仕草を観察して思いや意向の把握に努めている。難聴の方には耳元で大きな声で話をするよう心がけたり、必要に応じて筆談を行うなど、入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人様またはご家族様から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソードをわかる範囲で、入所までの経過等を個人別バックグラウンドとして記録、もしくはお話を聞き把握している。	入所時、本人様またはご家族様から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソードをわかる範囲で、入所までの経過等を個人別バックグラウンドとして記録、もしくはお話を聞き把握している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の暮らし方、心身の状態を個人別ケア一覧表に記録。又、排泄記録表、1日2回のミーティング、日常記録(特変時の状況記録)等により現状の把握に努めている。	1人ひとりの一日の暮らし方、心身の状態を個人別ケア一覧表に記録。又、排泄記録表、1日2回のミーティング、日常記録(特変時の状況記録)等により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の希望・ご家族様の希望をそれぞれ聞き取りを行い、各担当者が記録する近況報告を毎月ご家族様に報告している。また毎月のケア会議を行うほか、ケアプラン更新時にはモニタリングを行い、心身の状況に応じて随時見直しを行っている。	本人様の希望・ご家族様の希望をそれぞれ聞き取りを行い、各担当者が記録する近況報告を毎月ご家族様に報告している。また毎月のケア会議を行うほか、ケアプラン更新時にはモニタリングを行い、心身の状況に応じて随時見直しを行っている。	入居者・家族の暮らしの希望を聞き、担当職員が日頃の入居者の様子を個人別ケア記録に残している。ケア会議時に職員間で話し合い、ケアマネジャーが入居者の現状に沿った介護計画を作成している。介護計画には本人・家族に説明して同意・署名を残し介護支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ケア会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実績や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的には事業母体の病院と連携を撮り、本人様やご家族様の状況に対応している。又、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービス、支援を行っている。	医療的には事業母体の病院と連携を撮り、本人様やご家族様の状況に対応している。又、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービス、支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園等、地元地域の特性を把握し、又公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。	近隣の保育園等、地元地域の特性を把握し、又公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居の際に入居者・家族へ健康管理と緊急時の対応が素早くできることを説明し、ほとんどの入居者が母体医療法人をかかりつけ医としており、職員が同行して適切な受診支援を行っている。尚、入居者の希望により入居前のかかりつけ医を継続受診している方もいる。眼科や耳鼻科は主治医の指示により職員が受診支援を行っている。体調変化があった場合は家族に電話連絡して知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制をとっており、看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。	池田循環器科内科と医療連携体制をとっており、看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院して際、安心して治療ができるよう、また早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを揃え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。	利用者が入院して際、安心して治療ができるよう、また早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを揃え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予め、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族様と十分に話し合いを行い、事業所で出来る事を説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。	予め、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族様と十分に話し合いを行い、事業所で出来る事を説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。	入居の際、ホームの看取り支援について、入居者・家族へ説明して同意を得ている。重度化に伴い、医師・入居者・家族・看護師・職員と相談して今後の方針を共有して支援に取り組んでいる。医師の判断により食事の摂取ができなくなった場合は入院に移行している。ホームでは、酸素・胃ろう・喀痰吸引などの医療行為を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるように訓練している。毎年大村消防学校へ必ず参加し、その職員が先輩に指導を行っている。また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるように訓練している。毎年大村消防学校へ必ず参加し、その職員が先輩に指導を行っている。また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回職員・入居者・地元消防団と消防士の協力のもと消防訓練を行い、また別に水害等の災害を想定とした防災訓練も実施している。緊急持ち出しファイルを作成したり、毎月点検を行っている。職員の役割を決めているが、緊急を想定として現場にはその日の役割を決め勤務にあたっている。	年2回職員・入居者・地元消防団と消防士の協力のもと消防訓練を行い、また別に水害等の災害を想定とした防災訓練も実施している。緊急持ち出しファイルを作成したり、毎月点検を行っている。職員の役割を決めているが、緊急を想定として現場にはその日の役割を決め勤務にあたっている。	年2回、地元消防団と消防署の協力のもと、昼、夜間を想定した避難訓練を実施している。避難先として近隣の寺院が協力している。訓練後、消防署より評価・助言を頂き、全職員と共有し有事の際の対応に備えている。緊急時の避難先も家族、入居者が分かりやすいように玄関に掲示している。備蓄品も保存食3日分を想定し、防災用品、緊急時入居者一覧表を作成して有事の際に備えている。	昼夜間を想定した訓練を実施されているが、昼間に対し夜間は職員1人なので1人体制の訓練を強化することを期待したい。来年度より義務づけられるBCP(業務継続計画)に関し、感染症については作成されているが、自然災害については策定を進められており、今後、当BCPに沿った研修、訓練(シミュレーション)の実施を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。不適切な声かけ・対応に気付いた際には職員間で注意し合い改善に向けて取り組んでいる。	1人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。不適切な声かけ・対応に気付いた際には職員間で注意し合い改善に向けて取り組んでいる。	職員が母体医療法人の接遇研修会を受けて他の職員に資料を回覧し、不適切な言葉かけをしないよう取り組んでいる。入浴介助時等、同性介助を望まれる入居者に関し、できる限り要望に応えながら羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう言葉掛けや話し合いを行い、自己決定できるように働きかけている。	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう言葉掛けや話し合いを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくりと過ごすなどその方がその日をどのように過ごしたいかを把握し、出来る限りその方の希望に沿って支援している。	1人ひとりのペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくりと過ごすなどその方がその日をどのように過ごしたいかを把握し、出来る限りその方の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのおしゃれ着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいおしゃれを楽しまれている。又、洋服購入も希望があれば通い慣れたお店にお連れしている。	以前からお持ちのおしゃれ着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいおしゃれを楽しまれている。又、洋服購入も希望があれば通い慣れたお店にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好に合わせ、食事が楽しみになるようにメニューを変更したり、その人の病気や体調に合わせて、きめ細やかな食事を提供している。又、お盆拭きや食器拭きを一緒に行っている。	1人ひとりの嗜好に合わせ、食事が楽しみになるようにメニューを変更したり、その人の病気や体調に合わせて、きめ細やかな食事を提供している。又、お盆拭きや食器拭きを一緒に行っている。	食事は旬の野菜を用いて職員が調理している。入居者の嚥下状態に応じて、粥、刻み大小、トロミ食にて提供している。トロミ食は献立内容を職員が本人へ伝えながら食事介助している。代替食としてカレーの代わりに肉じゃがや親子どんぶり等、ごはんの上に具を乗せるのが嫌な方には、具を別にして提供するなど工夫している。入居者のやる気や残存能力を活かして食器拭きを手伝う入居者の姿が確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:ユニットA)	実践状況(ユニット名:ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考えながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。又、一人ひとりの状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。	入居者様の好みと栄養バランスを考えながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。又、一人ひとりの状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた全介助・一部介助・見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、本人の歯・義歯に不具合が生じた場合随時歯科受診の付き添い・介助を行っている。	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた全介助・一部介助・見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、本人の歯・義歯に不具合が生じた場合随時歯科受診の付き添い・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄の管理が困難な方には、排泄チェック表に記録を行い、1人ひとりの力や排泄パターンに合わせた支援、無理強いのない言葉掛けや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	自力で排泄の管理が困難な方には、排泄チェック表に記録を行い、1人ひとりの力や排泄パターンに合わせた支援、無理強いのない言葉掛けや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	職員は入居者個々の状態に合わせてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は排泄のタイミングを把握し、ポータブルトイレに誘導している。職員は入居者の状態に応じてパットの大きさを変更し、おむつなどの費用の削減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因についての説明を行っている。また、毎朝ラジオ体操や立ち上がり運動などのリハビリ体操で運動を行い、ここに応じた予防に努めている。	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因についての説明を行っている。また、毎朝ラジオ体操や立ち上がり運動などのリハビリ体操で運動を行い、ここに応じた予防に努めている。		